

会派調査(研修)報告書

NO.

令和 8年 4月 27日

胎内市議会議長

八幡 元弘 様

(報告者) 緑風会

会長 渡辺 宏行

緑風会 会派行政視察 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 8年 4月 16日 至 令和 8年 4月 17日 1泊 2日 (2日間) (別紙 日程表参照)	調査・研修 場 所	岐阜県中津川市
調査・研修 事 項	中津川市ひと・まちテラス 施設の概要、建設の過程、効果及び今後の課題等について		
調査・研修 出席者(参加者)	会長 渡辺宏行 副会長 坂上清一 幹事長 笥智也 会計 増子達也 八幡元弘 平井孝		
相手方(対応者)	中津川市議会 議長 島崎保人 ひと・まちテラス 所長 安藤嘉之 副所長 小池孝子 所長補佐(兼)企画管理係長 島倉雅也 議会事務局 議会総務課長 古田正		

調査の結果または概要

○ 岐阜県中津川市（4月16日(木) 13:30～15:20)

岐阜県の東濃地域に位置する市。人口は約73,000人。

中津川市の中心部は、かつての中山道の宿場町・中津川宿として栄えた中津地区で、今日でも宿場町ならではの歴史ある家屋が軒を並べている。

中津川の左岸には三菱電機の工場群、右岸には王子マテリア中津川工場などが立地している。

2005年2月13日に、旧中津川市と恵那郡の6町村及び長野県木曾郡山口村が合併し、現在の新・中津川市が誕生。

現在、リニア中央新幹線の岐阜県駅と中部総合車両基地の建設が進められており、リニアを活かし、住み続けたい、住んでみたいと思うまちづくりを目指しているとのこと。

○ ひと・まちテラス

施設の概要、建設の過程、効果及び今後の課題等について

中津川市では「ひと、まち、未来を元気にする交流と学びとにぎわいの拠点」を基本理念として、旧中山道に面した市有地と隣接する私有地も取得して整形した土地で、「子育て支援」、「市民交流」、「学び（図書館）」歴史文化の発信も含めた「観光」の4つの機能を備えた複合施設として整備され、令和5年7月15日にオープンした。複合施設のメリットを活かし、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民や市外から訪れた方に4つの機能が結びついた様々なサービスを提供して、中心市街地に新たなにぎわいを創出していく中津川市が進めるリニアのまちづくりの要となる施設の一つ。

地上3階建て、鉄筋コンクリート造＋一部鉄骨造＋PC造混構造で、総事業費は30億5,700万円、支援制度として社会資本整備総合交付金13億2,200万円、県補助金・森林環境補助金1,500万円などがある。運用体制は基本的に

は市直営であり、子育て支援センターなど一部を NPO 法人へ業務委託している。運営経費は、施設管理費・事業費・人件費(会計年度任用職員)合計で 7,860 万円とのこと。

中心市街地を建設地として選定した理由について、平成 9 年まで営業していたスーパーの跡地であり、既存の市立図書館の老朽化対応、中心市街地活性化を目的として市が購入し、建設工事を進めたが、反対運動などがあり平成 24 年に建設事業の中止が決定し空き地となった。平成 30 年「第 3 次中津川市中心市街地活性化基本計画」が策定され、同年 12 月より複合施設整備に向けた検討が開始。市民や団体等へのインタビューや意見交換会を計 10 回開催し、求められる機能等について市民意見の把握を行った。特に、高校生・大学生や、子育て世代など、施設の利用を高めたい年代層との意見交換を多く重ねるとともに、商工団体・企業労働組合・子育て支援施設の利用者や関係者・ボランティア団体・市民活動団体などに意見を求め、可能な限り実施計画に反映させたとのこと。

1 日平均利用者数は 1,298 人。内訳として、67%が図書館利用、19%が貸館利用、その他に子育て支援センターや図書館休館日のフリースペース利用者などであり、年 358 日の開館日数で 47 万人程が利用している。

施設を活用したイベントも多数開催されており、行政主導のものばかりでなく民間と共同で進めるものも多く、学生の持ち込みイベントも増えているようで、開催告知やレビューなど SNS 発信を最大限活用していることもあり、若者利用者が 6 割となっている。また、まちなかを親子で過ごしやすくワクワクできる場所にしていくために、特に、親子に遊びと体験の機会をつくることをテーマとしたイベントを今後も開催していくとのこと。

利用者の声として、学生や親子連れが多く活気がある、誰でも気軽に利用できるなどの反面、学生に占拠されている、学習室が学生利用で埋まっているなど、若者利用者の多さを象徴する意見が目立つ。また、施設内の清掃も行き届いており、視察した議員も館内の清潔さを評価する声が上がっていた。

現地にて概要説明を受けた後、施設を案内いただいた。平日昼間にもかかわらず多年齢層の方々が来館しており、気さくにお声がけ頂く場面もあり、多世代交流が気軽に行われている雰囲気を感じた。図書館も2階に一般開架、3階に児童書架と階層を分けており、子育て支援センターも3階に設置することで、住み分けがなされていた。日本百名山のひとつ恵那山を眺めながら屋外で読書できるテラス席なども整備されており、地域愛も育める設計となっている。総合案内がある1階では街道文化や観光情報を発信する休憩場所として開放されており、増えているインバウンド客をターゲットにした体験プログラムなどにも活用されている。

基本設計段階に入った当市に向けたアドバイスをするとしたら、という我々の問いに、「建てたから人が来るわけではない、建てる前にしっかり仕掛けを考えるべき。できてからも座ってばかりではダメ、動くことが大事」と力強いお言葉をいただいた。

先進地事例として、市街地活性化と多世代交流を中心に据えた中津川市の本事業は、当市が生涯学習施設建設に向け動いている中で、今後の計画・建設に大いに参考とし活用できる内容であると感じた視察であった。